

Q&A 第7章の中から～第十の戒め

質問 79 第十の戒めは、何ですか。

答え I 第十の戒めは「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、また、すべての隣人のものをむさぼってはならない」です。

質問 80 第十の戒めでは、何が求められていますか。

答え I 第十の戒めが求めているのは、私たち自身の状態に全く満足すること、それも、隣人と彼が持っている所有物とに対して、正しい愛の気持ちを持って満足することです。

質問 81 第十の戒めでは、何が禁じられていますか。

答え I 第十の戒めは、私たち自身に満足せずに、隣人の財産についてねたんだり恨んだりすること、また彼らが持っているすべての所有に対して、不適切な行動とむさぼりをおこすことです。

1. 第十の戒めで、一般的に求められるのは 何ですか。

第十の戒めは、「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべての隣人のものをむさぼってはならない」です。この戒めは、神を愛し、神を喜ばせようとするために（詩 119:5, 47）むさぼりを禁じています。むさぼりは、私たちの腐敗性を更に起こさせることで、聖さとは反対の性質です（ロマ 7:7-8）。従って、新生した者は自分の腐敗性が更に力を得ないように、むさぼりを聖霊によって殺さなければならない義務が付与されています（ロマ 8:13）。

2. むさぼりは、どのような性質を持っていますか。

むさぼりとは、世に対してすべての心が傾けられていることを示します。この世の物に対して過度な欲望を持っている状態です（箴 1:19）。従って、考えや行動が、丸っきりこの世に対することばかりです。そのような心には、満足がありません（箴 30:15）。貪欲的な心には、永遠に関する事、天に対する空間などありません（創 25:34）。むさぼりを持っている者は、自分の救いについてもかけず、キリストに対する関心もありません。世の栄誉と物質に心を置いています（Ⅱテモテ 3:2）。金持ちで役人だった青年は、キリストがすべての財産を売って自分について来るように仰せられた御ことばを聞きましたが、そうしませんでした。その心に満ちていた、むさぼりのせいだったのです（マタイ 19:21）。

3. むさぼり自体が 罪ですか。

むさぼりは巧妙な罪であり、霊魂全体を汚す罪です。金持ちである役人の事例のように、むさぼりに満ちている状態でも、外的には宗教的に見えたりもします。徹底して自分を欺いている状態です。むさぼりに満ちている者は、世的な心によって隣人と貧しい者を顧みて世話することをしません。神の事業にも心を寄せ

ません。むさぼりは、すべての悪の根源となります（Ⅰテモテ 6:10）。十戒の第二の石の板の最後にむさぼりを扱うのは、むさぼりが十戒のすべての戒めを犯すようにさせるからです。むさぼりは、天に対して完全に目を閉ざさせ、滅びに走らせます（マタイ 19:23）。

4. むさぼりを抑制させるために 私たちに必要な霊的性向は、何ですか。

第十の戒めが求める事としては、私自身の状況に対して完全に満足することです（Ⅰテモテ 6:6）。神が聖であり、知恵と摂理によって私たちに相応しく与えられた分け前に満足することです。つまり、今の状態を神が導いてくださったこととして思うことです（Ⅰテモテ 6:6-8）。神の恵みが、この地において、すべてを得るようにするのではないからです。それにも関わらず、神の恵みによって、この地で信者として得るようにさせたものがあります。従って、信者は、すでに自分にあるものによって感謝し、満足すべきです（ピリピ 4:11）。

5. 自足するために黙想すべきことは、何ですか。

自足するために黙想すべきことは、私たちがこの地に来る時、何も持たずに来たことと、この世を去る時にも何も持っていくことはできないことです。また、今、食べるものと着るものがあれば、それで感謝だと考えることです（Ⅰテモテ 6:7-8）。一方で、この地での生活は永久ではなく、それも素早く過ぎていくことを考えることです（Ⅰコリント 7:29-31）。この世にあるものは、すべてが私たちには一時的なものばかりです（ヤコブ 5:3）。自足するためには、今、私たちに永遠のものがあって、天に永遠の栄光が準備できていることを黙想しなければなりません。（Ⅱコリント 4:17-18）。

6. どのような状況でも 自足できる方法は、何ですか。

繁栄の時期には、人々の心はさらに富を得たいと願います。アハブの場合、繁栄の時期に満足できませんでした（I列王 21:4）。繁栄の時期に自足できる方法は、自分たちが持っているものは一時的なものであることを記憶することです。しばらく、ひと時、神が任せてくださったものに過ぎないと考えべきです。従って、神と永遠の分け前を心を置き（詩 62:10, 16:5-6）、良い事業に富む心を持ち、分け与えることを喜び、救済すべきです（Iテモテ 6:18）。一方で、貧しくなって苦難を受ける場合があります。このような場合は、外的な苦しみについて神に不平を言うてはなりません。まして、この世では貧しくても信仰に富む者とさせ、御国を相続する者とされたことを記憶すべきです（ヤコブ 2:5）。まして、この地において苦難を受けたとしても、キリストが現れる時にくださる賞を待ち望むことです（マタイ 25:34, ルカ 22:28）。

7. 私たちの隣人が持っているものについて、どのような態度を持つべきでしょうか。

私たちの心が恵みによって支配される時、隣人の有益を促進させるために行動を決定し、隣人の福祉のための労苦を喜びます。特に、隣人の霊的福祉に心を寄せます（Iコリント 13:4-8）。一方で、隣人の持っている財物や賜物を見る時、正しい心を持つべきですが、神がご自身の栄光のために与えられたと考えることです（ガラテヤ 1:23-24）。勿論、この世において繁栄の状態が最高で、望ましいと思う考えから抜け出すことです（詩 38:16）。外的な繁栄があったとしても、神の恵みがない状態であれば、却って危険に出会うため、隣人の持ち物について羨ましがってはなりません。

8. 第十の戒めで、禁じているのは 何ですか。

隣人が持っていることに妬みを抱き、あるいは、自分を悲しませたりすることです。隣人の繁栄と彼らの持っている特権について、不平を言うてはなりません

(ネヘミヤ 2:10)。そのような心は、私たちの内面の腐敗性にむさぼりを呼び起こすから駄目なのです(創 6:5)。キリストは、女を情欲的な目で見ただけでも心に姦淫を犯していると仰せられました(マタイ 5:28)。従って、第十の戒めは、すべての悪の根である習慣的な情欲と私たちの腐敗性が起こされないように、禁じています。特に、心に密かに罪が起こさせることを抑制させるための命令です。

9. 妬みとは どのような霊的状态ですか。

妬みとは、とても複雑な感情です。それは、自分は他の人と比べて劣等だという考えから出て来ます。そして、他の人が持っているものを自分も持ちたいと感じることです。妬みは、他の人のものを強奪したくなり、奪おうとする心を持たせます(ヤコブ 3:16)。サウル王はダビデに妬みを抱き、殺そうとしました。更に、教会での妬みは、自分を高めようとする無益な野望に駆られて分派を助長します(ガラテヤ 5:26)。従って、私たちの隣人が持っているものは神から来ていることを認め、それに対して妬みが起こされないように自分の心を調べることです。

10. 第十の戒めが、心の中に欲がはらむことのないように 処置しているのは何ですか。

第十の戒めで禁じているのは、私たちの心の中にある罪です。新生していると言っても、私たちの心には腐敗性が残っているから、罪悪に対する誘惑を受ければ、心が罪悪に偏り罪を犯すようになります。使徒ヤコブは、欲がはらむと罪を犯すようになると語っています(ヤコブ 1:15)。そのため、第十の戒めは、私たちの心に情欲がはらむことのないように、特に隣人のものに対してむさぼりを持ってはならないと語っているのです。隣人の所有についてむさぼりを持つようになれば、それに従って不適切な行動と悪な行為が出て来るようになるから

です。

質問 82 人間は、神の戒めを完全に守れるでしょうか。

答え I 人間は墮落しているから、この世では、どのだれも神の戒めを完全に守ることはできません。むしろ、日ごとに思いと言葉と行いにおいて、その戒めを破っています。

1. 墮落以前のアダムは、律法を完全に守ることができました。

墮落以前のアダムは、神の戒め（律法）を完全に守れる能力を神から頂いていました。神が人を神の形に造られ、義と知恵と聖を付与なさったからです（創 1:26-27）。正直に造られたからです（伝道 7:29）。アダムの心には、神の戒めが刻まれていました。アダムは、戒めに対して従順することができました。墮落以前のアダムは戒めを守ることができ、戒めを守る限り、彼はエデンの園で命の木の実を食べながら永遠に生きることができました。しかし、アダムは戒めを破ったことで、墮落した以降に罪が人類に入って来て、どの霊魂であっても神の戒めを完全に守ることができなくなりました。

2. 人が新生していない状態で、神の戒めを守ることができますか。

人間は、神のみことばと聖霊の御業によって新生しない限り、神の戒めに対して従順しようともせず、従順することもできません。新生していない者は、神の戒めを心に置こうとしません（I コリント 2:14）。更に、神の戒めは神の属性が繁栄されているので、聖く、霊的で、正しく、善であるにも関わらず、新生していない状態は霊的に死んでいる状態なので（エペソ 2:1）、霊的なことについて

での理解力がなく、感覚ありません。新生していない人は、却って罪に深く染まっている状態なので、神の戒めを破ることはとても慣れています。

3. 新生していない状態での律法は、どのような機能をしますか。

新生していない状態では、神の戒めと律法を完全に理解することができません。しかし、聖霊が、神の選んだ民に救いの恵みを適用される時、律法を用いて彼らが罪人である事実を悟らせます（ヨハネ 16:8）。神の律法は聖く正しいので、不義なる者たちに彼らの不義を示す役割をします（ロマ 7:7）。勿論このように悟るためには、必ず聖霊の御業がなくてはなりません。神の律法を通して自分が罪人であることを悟る者は、自分は神の律法を破り（Iヨハネ 3:4）、神の審判に直面していることを知り、赦しの恵みを得るために神に叫び求めるようになります（使徒 2:37）。従って、新生していない者に、聖霊が律法を用いて、彼らが罪人である事実を知るように、救いが必要であることを悟らせます。

4. 新生している状態では、神の戒めを完全に守ることができますか。

新生した者でも、この地に生きる限り完全に神の戒めを守ることは出来ません（ロマ 7:18-25）。新生したとしても、その心に腐敗性がまだ残っていて、まだこの世に生きていて悪魔の誘惑が続けられているから、戒めを完全に守ることはできません。更に、信者がこの世において完全に到達できるという恵みの約束はありません。聖書では漸進的に成長する恵みを語っていて、信者が完全になれるのはキリストの降臨によってなると語っています（Iテサロニケ 3:13）。実際に聖書では、信仰の人物たちが弱さのゆえにつまづいたことを証していますが、アブラハム（創 20:2）、モーセ（詩 106:33）、ダビデ（IIサムエル 11:4,15）、ペテロ（マタイ 26:72,74）がその例です。

5. 新生している状態は、罪を犯さない状態ですか。

第一ヨハネ 3 章 6 節では、キリストの内に留まる者は罪を犯しませんと語り、続いて 9 節では、新生している者は罪を犯しませんと語っています。このみことばは、新生している人は罪を犯さないという意味ではありません。新生している者は罪を習慣的に犯さないという意味です。実際に新生している者とは、罪と戦おうとして、罪を犯すまいともがく者を意味します。しかし、まだこの世にいて、肉の弱さの中にいるから罪を犯します。しかし、そのような罪は肉の弱さの中で犯すことで、罪に対する戦いもなく習慣的に犯すのではありません。新生したとしてもこのように罪を犯すことがあるから、信者は毎日悔い改めをし、悔い改めは一生続きます。

6. 信者が 戒めを完全に守ることができない にも関わらず、 神が 戒めを守るように 命令なさる理由は 何ですか。

私たちがこのように戒めを完全に守れないにも関わらず、神は私たちに戒めを守るように命令をなさいます（I ペテロ 1:15）。神が戒めを守るように命令なさっているのは、私たちに謙遜にさせるためです。墮落以降の人間は自分に対して肯定的に考え、自分を高めようとする性向が強いです（ヤコブ 3:5）。従って、神は、私たちが戒めを完全に守ることができないことを知るようにさせ、謙遜にさせます。私たちが戒めを完全に守れない自分を見ることで、私たちに自分を信頼しないように、戒めが完全に守れるようにしてくださいと神に願いをするようにさせます。更に自分たちの不足と弱さを見るようにさせ、キリストの大切さを知るように、キリストの中に留まるようにさせます。

7. 信者が 戒めを完全に守ることができないなら やはり 律法の呪いの下にいるということですか。

まことの救いの民は、自分が律法を完全に守って救いを得られないことを悟って、キリストに來た者たちです。それゆえ、彼らは律法を守って救いを得る行い契約の下にいてはならず、ただキリストの恩徳を頼りにして救いを得る恵み契約の下にいます。恵み契約の下では、律法の完全に守れなかったとしても、律法の呪いの下にいてはなりません。恵み契約の下では、神が律法の完全な行いを求められるのではなく、キリストを頼る、真実な信仰を受けられます。もし、行い契約の下にいてはなら、罪無しに生きることを求めるでしょうが、恵み契約の下にいては私たちに、罪と戦うことを受けられるのです。従って、信者が律法を完全に守れなかったとしても、律法の定めに至ることがなく、それはキリストの中にいてはからです（ロマ 8:1）。キリストが律法に対して完全に従順なさった恩徳などを、キリストにあって私たちが得るのです。

8. 信者が 律法を完全に守れないから、 律法を通して 何を悟りますか。

信者の腐敗性が残っていて、この世にいてはから、神の戒めを完全に守ることができません。しかし、信者が神の律法を完全に守ることができなかつたとしても、罪の定めには至らないのです。それにも関わらず、信者に律法を守りなさいと命じています。この時、律法は救い的手段にはなれないのですが、やはり信者によって、自分の罪を悟る機能をします（ロマ 7:20）。信者に律法は、罪を悟らせて悔い改めさせ、一方、罪に対して戦わせる機能をします。更に、聖なる生活を生きるように挑戦させる機能をします。信者にとって神の戒めは救い的手段でないと言っても、廃止されたのではなく、聖なる生活を生きるようにさせる道具となります（ロマ 8:4）。

9. 考えによって 戒めを破るのは、どうなのですか。

神と私たち自身と隣人に対して、罪となる考えをすることです。神に対して価

値ないと思ったり、完全でないと考えるのも、戒めを破ることです（詩 50:21,94:7）。神の完全な摂理に対して、神の栄光を損傷させる考えも戒めを破ることです（ゼパニヤ 1:12）。勿論、私たち自身に対して傲慢な考えをし（ヨブ 1:3）。野望に満たされ（イザヤ 14:13-14）、自分をほめたたえるのは戒めを破ることです（ロマ 12:3）。隣人に対して罪となる考えをするのも戒めを破ることですが、それは、妬みを持ったり（創 4:15）非難したり（エレミヤ 20:10）、復讐する心です（創 27:41）。

10. 罪となる考えの危険性は、何ですか。

罪となる考えが居場所を据えれば、直ちに、悪の言葉と行いの源泉となって戒めを破るようになっていきます（マタイ 12:34）。怠けた言葉と益にならない言葉を話すようになれば、神に対して直接的に不名誉を与え（詩 73:9,11）、自分自身と他の人に傷を負わせます（詩 140:3）。考えが言葉になって出たなら、その次は行動に移されるようになります。従って、私たちは、戒めを破る罪と悪の源泉が、罪と言える考えから出発することを記憶し、私たちの考えの中に罪となるものが居場所を据えないように、天のことを黙想し、聖なる考えと対話で満たすべきです（コロサイ 3:2）。

11. 律法に逆らう罪は、先ず 誰に敵対することですか。

戒めを破ることが罪です（Iヨハネ 3:4）。律法と戒めを制定なさった方は神です（ヤコブ 4:12）。それゆえ、戒めを破ることは神に敵対することです。罪は神を無視する、神のみことばを蔑ろにする中で犯すことなので、罪自体が悪です。聖霊の御業によって、律法を通して罪を悟った者は、自分が神にどれだけ大きな悪行を犯したのかを認識して、神の前に罪の赦しのため嘆願するしかありません。自分が神に敵対したことを悟っているからです。それでパウロは、悔い改めは神に対してすることだと説明しました（使徒 20:21）。

質問 83 律法違反の罪は、みな同じ酷悪なものですか。

答え I ある罪は、それ自体で悪なものであり、またいくつかの加重によって恐ろしい罪に発展するので、他の罪より神の目には重罪です。

1. 罪の中で、最も重く 深刻な罪がありますか。

すべての罪は同じように極悪ですが、すべての罪が同じではありません。より悪い罪があります。罪の中でより重い罪は、その性質上、人に対してよりも神に対する直接的な罪です。第一の板の戒めを破る方が、第二の板の戒めを破る罪よりも重い罪になります。より神に敵対する罪であり、神を侮辱することと偶像崇拜と不信仰、そして神の御名を侮る罪は重く深刻な罪です（I サムエル 2:25）。一方、第二の石の板の戒めの中でも姦淫罪は、盗む罪より重い罪です（箴 6:30）。

2. 罪の中で深刻な罪として、より重く扱う 根拠はどこにありますか。

罪の程度と性質に応じて罪が重くなります。旧約の犠牲のいけにえを奉げる時、罪の重さに応じて犠牲のいけにえの捧げものにも差がありました。より重い罪に対しては、裁きの程度もより重いのです（マタイ 11:22）。キリストはイスラエルに向かって、ツロとシドンの地よりも更に重い裁きを受けることを告げられました（ルカ 10:13-14）。罪の中で最も重い罪として扱われるのは、人間の判断からではなく、「神の目」に映る通りです（ヨブ 36:9）。罪の性質に従って罪の重さは量られますが、一方で、状況に応じて罪の深刻性が増して行くからです。

3. 知識と関連して、より重い罪には 何がありますか。

ピラトの場合、キリストには罪がないことを知っていました。ユダヤ人の妬みによってキリストを殺そうとすることも、知っていました。それにも関わらず、彼はユダヤ人たちにキリストを渡したのです。勿論、自分自身はそのことについて何の過ちもないと宣言します（ルカ 23:14）。しかし、ピラトは確かな事実を知っていながら、それに反する罪を犯しました。これは、より重い罪に該当されます。

イスラエルの民は、自分たちは律法を持っているから知識があると自慢しました。しかし、律法を異邦人の前で破ったことによって、神を侮辱しました。それは、決して軽い罪ではありません（ロマ 2:22-24）。自分の義務を知っていながら行わないのも重い罪で、誓願をしてから行わないのも重い罪であり、他の人の罪を指摘しながら、自分が同じ罪を犯すのも重い罪です。罪を確かに認識する中で犯す罪だからです。

4. 教会の職務と関連して、重い罪には 何がありますか。

.キリストから、教会の職務を頂いて賜物を受けながら、自分の利己的な目的を成すのに使用し、賜物を乱用する罪です。神が、卓越的な位置に置いたので、彼らの罪は決して軽くありません（エレミヤ 23:11,14）。ダビデは自分の王の職務を利用して、ウリヤの妻を奪いました。ナタン預言者は、彼の罪が決して軽くないと責めました（Ⅱサムエル 12:14）。ソロモンの場合も、王の権威を乱用して数多くのそばめを置き、結局、偶像崇拜までしますが、これは決して軽い罪ではありません（Ⅰ列王 11:9）。みことばの働き人の罪は、一般信者の罪より最も重いものです。神には勿論のこと、教会と神の民に対しても罪を犯したからです（ゼパニヤ 2:8）。

5. 信仰告白と関連して、重い罪には 何がありますか。

教会の前で信仰告白をして自分は回心していると証した後に、罪を犯すの

はより重い罪です。多くの人がある人の信仰告白を見て神に栄光を帰したのに、実際にはそれと反対の生活をするので、教会を騙し、神を騙し、自らを騙したので決して軽い罪にはなりません。偽り信仰告白によってキリストの御名が侮辱を受け、教会が世の人々の目にさげすむように映させたから、大変重くて深刻な罪です（ロマ 2:24）。

6. 感謝と関連して、重い罪には 何がありますか。

イスラエルの民は、神の特別な愛と恵みを受けたのにも感謝しませんでした。神の大きな恵みを受けてから感謝しないのは、重い罪です（イザヤ 1:2）。それは、神の祝福なされたことと恵みを軽蔑する行為だからです。パウロは、神の恵みに感謝しない者たちは虚しい思いに陥って、神を否定するまでに至ると語りました（ロマ 1:21）。感謝しない者たちは、結局、恵みをおろそかにして、自分に困難が来るとキリストから離れて行くことまでします（ヘブル 2:1-3）。

7. 弱い兄弟たちに犯した罪は、なぜ重いのですか。

聖徒たちに犯した罪は、彼らの中にある神の形を軽蔑した罪だから、決して軽い罪ではありません（ルカ 10:16）。ところが、教会の中にある弱い兄弟たちをつまずかせる罪は、更に重い罪です（I コリント 8:12）。このような罪は、キリストの体である教会を損傷させ、霊的に弱体化させるからです。弱い聖徒をつまずかせる罪は、福音伝道に妨げの石となることなので、罪の深刻性がより重いのです。

8. 多重的な 罪の深刻性は、何ですか。

一つの悪い行いを通して、多重的な罪を犯す場合です。ダビデの場合、盗み、姦淫罪、殺人罪を連続して犯しました（II サムエル 12:9）。一つの犯罪行為に

よって罪が拡散され増加しますが、それは重い罪に該当されます。多重的な罪は教会を倒し、多くの人々に傷を与え、回復も簡単でないので重い罪です。

9. 状況に応じて より重い罪となる場合には、何がありますか。

もし、主日に罪を犯したなら、それは、より悪徳な罪です (エレミヤ 17:27)。イスラエルの民は、祭りや例祭の時に最も罪を犯しました (イザヤ 1:14)。断食の祭りには罪を抑制するのではなく、より罪を犯したのです。感謝の祭りには、神の目を欺いて捧げてはならない物を捧げるという、より重い罪を犯しました (イザヤ 22:12-13)。福音の光の下にいるにも関わらず、公開的にキリストの栄光に侮辱を与える行為などは、より悪い罪になります (イザヤ 26:10)。

10. 赦されない罪は、何ですか。

聖霊に逆らう冒涇の場合は、赦されない罪です。聖霊に逆らう冒涇とは、キリストを知る知識があつたのにも関わらず、意図的にキリストの血を汚れたものと見ることです (マタイ 12:31, ヘブル 10:29)。背教の場合にも、罪の赦しはありません。背教というのは、神の恵みの手段の下にしながら、ある時は恵みの姿をしていたが、信仰告白を捨ててキリストから離れる場合です。勿論、背教者たちが聖霊の賜物を体験し、神のみことばの光を味わったとしても、それはただ一般的な恵みとして、彼らの心までは変化できなかつたということです (ヘブル 6:4-6)。結局、恵みのない状態の中で、恵みある姿はしていたとしても信仰告白から離れるのです。このような者たちには、悔い改めの霊が与えられないので、悔い改めることはできません。従って赦しもないのです。

質問 84 すべての罪が受けるべき 刑罰は、何ですか。

答え I すべての罪は、この世でも来る世でも、神の怒りと呪いを受けます。

1. 罪に対する刑罰は、何ですか。

罪は、性質上、神に敵対することです。従って、罪に対する神の公義は、審判なさることです。罪に対して、神は御怒りと呪いで罰せられます。それは、聖なる神が、ご自身の法に確かに記しています（ハバクク 1:13）。神は、罪に対して忌まわしく思うだけではなく、審判なさいます（エレミヤ 44:4）。罪に対する神の怒りは、罪人に恐ろしい効果をもたらします（イザヤ 33:14）。罪に対する神の怒りは、この世でも悲惨な死そのもの、そして永遠の地獄の苦痛です。

2. 罪人たちに対して、神は怒りをどのように発せられますか。

神は呪いの実行者で、ご自身の怒りを罪人たちに注ぎます。神の怒りは、御顔を彼らから隠すことです（エゼキエル 39:24）。それ以上、罪人たちに恵みを施さないということです。神の怒りは、抵抗できるものではありません。神の怒りは激しく恐ろしいものです。怒りという言葉は「熱い」という意味を含んでいますが、神の怒りは火のようで注がれると避けられません。まるで、若い獅子がうなるような恐ろしいものです（箴 19:12）。神が罪人たちに怒りを注げば、その靈魂は苦痛の中にいるようになります。この地でも、神の怒りは確かなものです（ガラテヤ 3:10）。更に、地獄での神の怒りは永遠に続き、途中で休むことなく、終わりなく持続します。このような怒りは、罪に対する対価です。従って、いくら小さな罪だと言っても、罪を犯さないように靈的に注意を払い、罪と戦わなければなりません。

3. 罪人を叱責しながら、神は 何を現しますか。

神が罪人を叱責なさることは、極めて正しい行為です。罪人が責められるのは、極めて当然です（ルカ 23:40）。神が、罪人たちの罪に対して怒りで罰するのは、その間、神の恵みを軽くあしらって悔い改めの機会を乱用した罪人には、極めて

当然のことです。神は、罪人を責めながら、罪人の愚かさに報いるだけでなく、ご自身の正しさを現されます（I列王 8:32）。

質問 85 罪に対して、私たちに付加された 神の怒りと呪いから免れるように、神は私たちに 何を求めておられますか。

答え I 罪に対して、私たちに付加された、神の怒りと呪いから免れるように、神は私たちにキリストへの信仰と命に至る悔い改めを求めておられます。それは外的に、すべての手段を熱心に使用することで、キリストが 贖いの恩徳を私たちに伝達して下さいます。

1. 神が、罪を犯した人に 神の怒りから免れるように 用意して下さった方法は 何ですか。

神は、罪を犯した人を救うための方法を用意なさいました。アダムが墮落してすぐにキリストを約束し、キリストを通して神の怒りと呪いから免れるようにして下さいました（創 3:15）。それは、アダムとエバが墮落する以前に、神と御子の間に約束された方法でした。アダムは、約束して下さったキリストを通して神と和解することができました。従って、私たちの罪に対する神の公義は、怒りと呪いですが、神は、神の愛を根拠として、呪いと怒りから免れる道を備えて下さったのです（ロマ 3:21）。

2. 罪人たちが神の怒りから免れるために、どこに逃れたら 良いのですか。

罪を悟って神の怒りを知るようになった罪人は、神の怒りから免れる道を探

すようになります。自分の良い行いを通して、怒りから免れようと努力してみます。律法と儀式を守ることで神の怒りから免れようと努力もしてみます。しかし、そのような努力と労苦が無駄で、到底、神の基準に至らないことを認めるようになります（ロマ 7:7-8）。罪人は、それから仕方なく神が備えてくださった方法を探ようになりますが、神がキリストを罪人のために備えておいたことを知るようになります。勿論、このような霊的悟りは、聖霊の御業によることです。

従って、罪人は、キリストにあつて罪の赦しによる自分の不義が覆われ、ついに神の怒りと呪いから解放されることを悟り、キリストに走って行くようになるのです。まるで、病人が病気を良く治せる医者を探て行くような論理です（マルコ 2:17）。このように、神の用意くださった方法がキリストだということを知るのは、聖霊の御業によることです。

3. 罪人が キリストを探す理由は、何ですか。

罪人は、聖霊の御業によって自分が罪人である事実を悟り、罪による神の怒りと呪いが、自分に下ることを知るようになります（ヨハネ 16:8）。そのように霊的に覚醒された罪人は、救いの方法を探します。自分たちがどのように神の怒りと呪いから免れるのか、その方法を探すのです（使徒 2:37）。この時、神は、罪人たちが罪の赦しを受け、不義を覆う恵みがキリストの中にあることを知るようにさせ、キリストを探すようにさせます。罪人がキリストを探す理由はもつともです。自分たちが罪の赦しを受け、神の怒りから免れるためにです。このような霊的覚醒は聖霊の御業によることですが、このような覚醒なしにイエス・キリストを信じることはできません。しかし、もしも、このような覚醒なしにキリストを信じるという場合、それは、キリストを完全に理解できないまま、自分の下心のために信じることなのです。

4. キリストの中に 神の怒りから免れる 恵みがあるのを、どのようにして悟ることができますか。

聖霊が、福音を持って、キリストの中に神の赦しと義があるのを悟らせます。聖霊がすでに罪人に自分の不義を悟らせて、罪の赦しのため救いの方法を探すようにさせました（使徒 2:37）。,それゆえ、聖霊が罪人を悔い改めるように導くのです。聖霊は、更に進ませて、キリストの中に救いの恵みがあるのを知るようにさせるだけでなく、同時に、キリストに対する信仰も生じさせて、キリストに行くようになさいます（ヨハネ 3:15）。従って、罪人は、キリストに対する貴重性を知って（ヘブル 2:3）キリストの前に出て行き、キリストに屈服し、贖罪の恵みを求めるようになるのです（エペソ 1:7）。